

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1190500031		
法人名	特定非営利活動法人さわやか福祉の会さわりびとみやしろ		
事業所名	グループホーム喜楽里		
所在地	埼玉県南埼玉郡宮代町川端3-8-25		
自己評価作成日	平成23年3月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88逸見ビル2階
訪問調査日	平成23年4月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

モットーである「安心、安全、尊厳」「困った時はお互いさま」と運営理念の実現をめざしています。
 NPO法人として制度外のサービスも行っています。地域の方々のご協力を得ながら、子供からお年寄りまで交流できるあたたかなホーム、心のこもったケアを大切に考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

古利根川の沿線にあり、静かな住宅地の中で一市民として生活出来る環境がある。地元の特長として蕎麦畑が多かったようで、今でも蕎麦打ちの会があり、ボランティアで蕎麦を打って頂いて、オーナー、デイサービス利用者、ボランティア、家族、全職員等総勢100名にも及ぶ参加者があり、大盛況を博している。ボランティア支援も充実しており、地域との連携も良好なことが確認できる。外部評価の自己評価実践状況を全職員が分担して記入しており、事業所全体で取り組んでいる。職員の自己評価意識が高く、自らのケアの振り返りをして、支援をしている。研修体制が優れており更に研鑽を積もうという意識が高い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの人の場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中に、地域で助け合って生活することを掲げている。常に理念を意識し、実践に活かせる様、共有化を図っている。	会議時等に、共有できているか確認している。重度化傾向にあるため、職員の介護力をつけるためにはどういう事をしていかなければならないのか、理念に立ち返ってケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、地域のイベントや行事には積極的に参加している。また、ホーム行事などには地域の人々、家族等を招待し、交流を図っている。	地域との交流が活発に行われていることが、様々なイベントの開催報告から確認できる。集会所が近いので招待されることも多いが、ボランティアの訪問も随時あり、日常的に交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人として認知症の人の理解を深めて頂くよう地区懇談会のテーマとして認知症介護を取り上げたり、地域ボランティアの人々には認知症の理解と支援方法の説明会を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実際、評価への取り組み状況等を報告し、様々な立場の方から意見、助言を頂いている。また、会議のみならず、実際に現場の状況やイベント等を見ていただき、率直な意見を頂いている。	23年度は6回開催を目標にしている。今まで4回の開催で家族、区長、民生委員、老人会会長、町会班長等の出席を頂き、状況報告をして、意見を頂いた時は速やかに検討している。	地域の住民との交流を、更に深めて行けるよう、運営推進会議の年6回開催を、年度目標として頑張っていきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域のNPO法人として町から事業の委託を受けるなど連携を密に図っている。また、ホームの入居や保険の問題等の相談をするなど必要に応じて状況を伝えサービスの向上に努めている。	地域包括会議(月1回)に参加、市町村職員とは常に連携がとれている。独自に法人主催のサポーター研修養成講座(車椅子介助等)を開催して、ボランティアの介護支援技術の向上に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠を含め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	危険防止を第一として、利用者個々に対応しているが、重度化が進む状況の中、転倒の危険性が高くなるリスクを鑑みて、離床センサーを家族の理解を頂いて設置し、転倒防止に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	現場研修で虐待について学んでいる。言葉、態度、夜勤時などのケアを含め、具体例をあげながら、接するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様で成年後見制度を利用されている方がおり、制度について学ぶ機会を得ている職員もいる。今後は職員全員が理會出来る様努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居退去時は職員も含めて利用者や家族の方と会い、十分な説明を行い、理解、納得を図っている。改訂等については文書等でお知らせしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は常に利用者や家族からの意見や気持ちに耳を傾ける様にしている。また毎月訪問にみえる介護相談員さんからは利用者の意見、思いを聞いて頂き、反映している。	御意見箱の設置はあるが、直接訪問時にユニットリーダーが対応して、家族の意見等把握できている。管理者には都度報告があり、意見、情報はたくさん頂ける良い関係が築かれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットにおける会議や全体会をを通し職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させるようにしている。	毎年理事長と職員との間で、個人面談が実施されている。また随時の相談等にも対応している。各ユニット毎に夕食前ミーティングを行い、其々自主的に運営に関わっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談等を通して一人ひとりの意識改革ができる様働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の職員研修や研修部会を中心とした勉強会を行っている。外部研修等は積極的に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修、地域との懇談、事例検討等の勉強会の場を通し、質の向上への取り組みをしている。また相互の意見交換や見学等もさらにすすめて行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階で見学して頂き、短時間ではあるがグループホーム内で一緒に時間を過ごし、会話しながら不安を取り除けるよう行っている。何度でも話を聞き受け止めるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までのいくつもの不安なこと、問題点等は解決するまで聴く機会を作り、相談にのっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が希望している支援は何かを充分話し合い、助け合い活動、デイサービスなどを利用した在宅支生活の支援などの助言も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	買い物や散歩、地域の行事等、行動を共にしたり、食器洗い、洗濯物たたみ等手伝っていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事に参加していただいたり、電話手紙等家族と連絡を取り合い、相談しながら関係を築いている。また退院時はご家族に朝晩付き合っていただく事もあった。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人等馴染みの方々がいつでも面会したり、外出できるよう支援している。また会話の中で馴染みの場所を話題にしたり、外出する機会も作っている。	馴染みの理髪店を継続している利用者には外出支援をしており、家族との日中の外出支援時にも、安全に実施できるよう対応している。教会の礼拝時の付き添い、友人の来訪も受け入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個々の価値観や好みに応じて利用者同士が話し合うことが出来る環境をつくり、声かけしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じて連絡を取り合い、情報交換等も行っている。助け合いの活動の利用は継続して頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の声は良く聞き、共同生活の中で出来る事には意向に添うように努めている。	利用者の意向は日常的にくみ取れるように、努めており、会話の中から、行きたい所、買いたい物、やりたい事等、生活に張り合いが出るように、職員同士、情報を共有して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居後も継続的に本人、家族から今までの暮らしぶりをお聞きし、職員間での話し合い、対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに目配り。気配りをし、状態観察をした上で、声かけし、心身状態を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの要望を聞いた上で、ケース会議ミニカンファレンスで利用者個々の暮らしの現状の把握に努めている。	家族の意向を十分に伺い、利用者の身体状況の進行に対して、適切なケアを提供出来ているか、職員会議で報告をして、ケアプランに活かせるように検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の細かな情報はケース記録や申し送りノートに記入し、重要な事項は口頭で伝え、職員間で情報を共有化を図り、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同じ建物内にある、デイサービスのイベントに参加したり、障害者や子どもたちと交流、助け合い活動を利用しての外出など、本人や家族の状況も含めて柔軟な対応を支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要に応じてボランティア、陽だまりサロン等の文化施設への交流等、地域の資源との協働を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望でかかりつけ医に受診していただいている。受診は家族にお願いしているが、緊急時や家族が対応できない時は、職員が対応している。	家族対応を基本としてお願いしているが、臨時の対応は可能。ボランティアで、歯科衛生士による口腔ケアの指導を受けており、咀嚼、嚥下障害の予防に効果が出ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内に看護職員はいないが、訪問看護ステーションと委託契約し、毎週定期的な訪問時に適切な助言をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中には家族や病院側と出来るだけ多く情報交換を行い、退院時にむけてスムーズに受け入れできる様支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた対応として、協力医院にお願いすると共に訪問看護ステーションとの連携を行っている。家族等、職員、助け合い活動と共にチームケアが行えるよう方針を共有し連絡体制を整えている。	ホームとしてできることの説明は充分した上で、家族の意向、医師の所見等を十分に考慮して、救急車対応ギリギリの状態まで、支援出来ることを、話し合いを繰り返して、全職員が理解してケアができるよう、努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署による救命救急法の研修を全職員が一度受講している。また、会議などでは緊急時の対応として、具体的な対応について話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災による避難訓練は年に1～2回、全員で消防署の避難訓練を行っている。地域防災訓練には年1回参加している。	赤色灯(パトライト)を2ヶ所設置。近隣の住民に設置の説明と外部からの救助方法として、ガラスハンマー、ロープ、軍手、侵入場所の説明をして非常時の協力をお願いしている。車椅子介助での非難も、協力して貰える体制が整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修、会議において度々尊厳について話し合い、謙虚な気持ちで対応する事を心掛けている。又言葉かけについても日々注意を払い対応している。	1人ひとりの尊厳を大事にして行くということ、ケアにいかして行くにはどうしたらよいかと考えながら、職員もそれぞれ課題を明確にして、プライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いが自由に表出しやすい、又自己決定ができる様心掛けている。言葉かけにも注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活を大切にし、支援するよう努めているが、利用者の状態もここに違うので、全ての方に満足していただく事は難しい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの今までの生活の中で築かれた習慣や意識に配慮して支援するよう心かけている。又美容師である利用者の家族が希望される方の髪を定期的にカットしてくれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、配膳、お茶くみ、片づけ、食器拭き等、役割を持って参加して頂くよう配慮している。また民謡、クラシック、童謡等色々なジャンルのCDを聴きながら、楽しんでいただけるような支援をしている。月1回の行事食は好評である。	座っていてもできることは手伝って貰い、共に食事を楽しむ場を提供できるよう努めている。おやつバイキング、食事バイキング、回転寿司の外食支援等楽しみを共有できるよう計画を立てている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回、摂取量、水分量は記録し、栄養バランスに関して栄養士の方に依頼している。水分を取りにくい方にはゼリー等で補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員の方に声掛けし、行っていた様努めているが、時に不穏状態のため行って頂けない時もある。月に一回訪問歯科の指導を頂き、実行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を目指し、対応している。時間を決めて誘導したり、不穩時の対応の1つとしても支援を行っている。	適時の声かけ誘導により、布製下着への移行支援ケアの結果、リハパン着用者が減少、利用者個々の排泄状況に関しては、今後もカンファレンスをして、継続支援して、いきたいと考えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養管理士によるバランスの良い献立により、食事を提供している。運動に関しては、散歩、施設内での体操に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は設定せず、一人ひとりの希望に合わせて、楽しんでいただいているが、時間や利用者の状況(機械浴の方法等)により、安全性も重視し、楽しむまでには至っていない時もある。	毎日入浴できるが一応午後が基本。重度の方にはD、Sの機械浴を使用している。ゆず湯、菖蒲湯等、季節感を感じて頂けるように、工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息は自由に取れるよう配慮している。室内の温度調整、空気清浄、明るさ等チェックしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的、用法、用量を理解した上、服薬後の状態、日頃の変化を観察、確認するよう努めている。副作用についての理解までは至っていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴からその方が好きな事、得意な事を発揮していただける様、又日々のレクリエーション、行事等職員間で良く話し、楽しくなるよう、喜んで頂けるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩外出は行っているが、その日の一人ひとりの希望にそってその外出までには至っていない。普段行けない所は家族、地域のボランティアさんの協力をいただいている。	額を決めて買物ツアーを行っているが、毎回好評であり、利用者の楽しみになっている。ボランティアの協力により車椅子で外出が出来るという、環境が整っており、少し遠方への外出が可能である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額ではあるが、数人はお金を所持し、近くのコンビニ、薬局などで買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方もおり、家族と頻繁に連絡しあっている。手紙や、年賀状など書かれている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けをし、共用の空間は生活で居心地よく過ごせるよう配慮している。	天井に明かり取りがあるため、日中は施設内が明るく、節電できる環境がある。利用者手製のパッチワークの作品(暖簾)が、廊下、トイレの入り口、居室入口に飾っており、ソファにはクッション等、馴染みの物として使用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士で会話ができる様なスペースを作っている。一人になれるよう、また、一人きりにならないような支援も心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れたものや好みのものを持ってきて頂けるよう説明しており、居心地の良いスペースとして活用していただけるよう、ご本人と一緒に清掃整理、レイアウト等行っている。	現在、畳に布団の利用者はいない。馴染みの家具の持ち込みにより、一人になって寛げる空間が保てるように、居心地を日常的に確認している。家具の配置替えに際しては、安全面に配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は段差なく、必要な所は手すりを設置している。危険な所がないよう入居者の混乱や失敗を軽減し、自立した生活ができる様、支援を行っている。		